令和４年度「幼稚園　学校評価」結果公表シート

登園では令和３年度の幼稚園評価として、教職員自己評価及び、学校科研関係者評価を行いました。職員一人一人が自己を見つめなおし、それぞれの評価結果について、話しあい、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにしてけるよう努力して参ります。この結果を深く受け止め更なる教育活動の充実・環境の整備に努めてまいります。

《小平神明幼稚園の教育方針》

①豊かな人格の成長を目指す保育

神明幼稚園では、幼稚園生活を子どもたちが自分たちで創り出していくことを目指しています。自分や仲間と持った目標に挑戦し達成することができた「自信と誇り」、日々の生活の中での自覚的遂行、四季折々の生活行事。幼児は体験することを通して学んでいきます。

子どもたちにとって、毎日が楽しく、明日に希望（のぞみ）が繋げられる様に、「自分に対する誇り」と「仲間に対する認め」を育んでいけるように、幼稚園の時間・空間・仲間（人との関り）の適切な手だてが得られる環境構成を大切にしてます。

幼稚園での生活を通して、幼稚園教育要領に示されている健康・人間関係・環境・言葉・表現の各領域のねらいを総合的に達成していきます。

カリキュラムは、幼児期の生活を「基本となる生活（第一層)」「あそびに代表される、子どもたちの生活の中心となる活動（第二層)」「生活、遊びがより充実するための技術の修得などの学習活動（第三層)」の三層と仮定し、三層が絡み合いながら生活全体の質が向上していくよう、第一期から第五期との節をもって総合的に具体化し、構造的な計画をもって進めています。

育ちのゆっくりな子・育ちのアンバランスな子・コミュニケーションが苦手な子・障害を持った子など個別の配慮と援助がより多く必要とする子たちも受入れ、「誰でもが仲間として育ちあえる、インクルーシブな幼稚園づくり」に努力しています。

②豊かな自然環境

小平神明宮の神域の木々が織りなす緑豊かな環境に、鳥や虫たちもたくさん生息しています。樹齢３５０年以上の、天空に聳える欅の様に大地にしっかり根を張って空に向かって真直ぐに伸びることが神明園児の目標です。

③教育愛にもえる教職員

一人一人の伸びる芽を大切にして、より良い体験を通じて成長できるように、「人は人が育てる」の考えで豊富な教職員を配置しています。保育の質的向上のために、園内外での研鑽に積極的に努めています。教職員全員が自覚・率先したチームとしての日々全力を傾けるとともに、保育の質の向上のために研鑽に大いに努めています

④子どもの目線の設備

木造園舎・広いホール・身体を十分に動かしたりお水を使える園庭・自然を活かした裏山・虫採りや畑の活動ができるみんなの広場など、神社境内も含めた広い敷地を園児の為に存分に活用しています。

《保育の目標》

本園は「日本国憲法」・「教育基本法」・「児童憲章」・「子どもの権利条約」・「幼稚園教育要領」などの諸法令・条約、及び本園建学の精神である「健康・感謝・正直」の綱領をもとに、「自らに誇りを持ち課題に挑戦する子たち　ひとを愛する子たち」を育むために以下の保育目標と指針を掲げております。

①保育目標
（１）健康な身体と体力を培う
（２）感謝の気持ちと素直な心を育てる
（３）思考力の芽生えと豊かな情操を養う

②指針
（１）「ともに育ちあうよろこび」の精神を保育に貫く
（２）幼稚園－家庭－地域が力を合わせて子育てに取り組む

③３年間で育てたい姿
（１）仲間の多様性を受け止めみんなで過ごす楽しさがわかる（公平性）
（２）遊びや活動を自分たちの力で創っていく（主体性）
（３）目の前にある目標に対し自分で考え工夫する（思考性）

〈R４年度のアンケート結果を踏まえた改善点〉

・前年度よりも「子どものみとりと理解②」の部分で教職員の自己評価が平均してＣ評価となった。これは、昨年度のアンケートを踏まえ「記録を実践に活かす」という課題が意識化されたが、充分に改善されず、課題として残っている事が考えられる。本年の成果として自己課題として意識化されたことが挙げられ。次年度は、保育の記録を実践に活かすためのシステムの構築を課題として取り組むことで、より質の高い記録を目指す。

・昨年度に引き続き、「地域への開放と支援」の部分で、教職員の自己評価が平均してＣ評価となった。近年のコロナ禍の影響により十分に幼稚園を地域に開放できていない事や、近年の預かり保育（長時間保育）利用者の増加により、以前は午前保育などに、園庭開放を行っていたが、園庭の空き時間が無くなったことによる園庭開放実施回数の低下などが要因としてあげられる。上記の課題を克服するため、次年度は、子育て支援担当を設け、定期的な子育て支援事業の実施を計画していく。また、コロナ禍でひかえていた、た地域の子育て世代を対象とし子育て講座を再開するなど、子育て支援事業の充実を図っていく。

評価項目	具体的確認事項	自己評価	関係者評価
教育方針・目標の共有	すべての職員が園の目指すこどもの姿を理解し、具体的にイメージできるように研究・努力している	A　１３％ B　８３％ C　４％ D　０％	A　22% B　78% C　０％ D　０％
指導計画の作成と評価	自分の保育と計画の評価・反省について、次の保育と計画に活かせるように取り組んでいる	A　０％ B　８８％ C　１２％ D　０％	A　11% B　８４％ C　5% D　０％
教育内容	教師間でお互いの保育について話し合い、評価・反省をして次に活かしている	A　４２％ B　５０％ C　８％ D　０％	A　61% B　39% C　０％ D　０％
教育環境の構成	子どもが多様な体験や身近な自然や社会と関わることを通じて学ぶ環境を整えている	A　４２％ B　５０％ C　８％ D　０％	A　67% B　28% C　5% D　０％
こどものみとりと理解	子どもの話をよく聞いたり、子どもの目線に立ち、言葉にならないおもいやサインを受けとめるよう努めている	A　４２％ B　５４％ C　４％ D　０％	A　５０％ B　５０％ C　０％ D　０％
こどものみとりと理解②	記録し、振り返り、向上に活用している	A　２５％ B　３３％ C　４２％ D　０％	A　２３％ B　72% C　5% D　０％
指導と関わり	子ども達が自分で考える機会を増やし、心を育てる保育を実践している	A　３８％ B　５４％ C　８％ D　0	A　45% B　50% C　5% D　０％
教職員同士の協力・連携	園生活上で「特別なニーズを持つ」子については、教職員全体で特によく話し合い、共通理解をもって対応している	A　３３％ B　５９％ C　８％ D　０％	A　39% B　61% C　０％ D　０％
専任講師による 正課体育指導	専任講師によと系統的カリキュラムを持つことで身体を動かすことを好むようになり、体育技量の成長が見られ、体位の向上がもたらされている	A　２９％ B　６３％ C　８％	A　28% B　67% C　5%

		D　0％	D　0％
研修・研究への取組み	自分の保育について、自己課題をもって計画と反省を行っている	A　8％ B　71％ C　21％ D　0％	A　11％ B　89％ C　0% D　0%
研修・研究への取組み②	自主研修の内容を発表する機会を設けるなど、成果を共有する仕組みがあり、機能している	A　12％ B　76％ C　12％ D　0％	A　17％ B　78％ C　5% D　0%
安全への配慮	園内環境・施設について、全教職員が常に関心を持つとともに、緊急時（事故やけが、感染症の発症など）対応手順について、共通理解をもてるように取り組んでいる	A　21％ B　50％ C　29％ D　0％	A　22% B　61% C　17％ D　0％
情報の発信	園から保護者へ何を重点的に伝えるかを決め、情報発信に努めている	A　33％ B　59％ C　8％ D　0％	A　45％ B　50％ C　5% D　0％
地域への開放と支援	地域の子育てセンターとしての役割を発揮している	A　8％ B　42％ C　50％ D　0％	A　11％ B　50％ C　39％ D　0％

自己評価：正規職員　２４名を対象に実施

関係者評価：学校法人けやきの杜　小平神明幼稚園　理事・評議員　１８名を対象に実施